

在宅医療研究演習 (Graduate Seminar of Home Medical Care Study)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
藤田孝、福田愛子、鈴木真紀子	1年次後期	選択	2	48	演習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	在宅医療研究特論では、在宅医療に関与するための臨床検査技師の取り組みについて、在宅医療を行う施設から得られた情報を基に具体的に検討を行う。また、先進諸外国での在宅医療による成果や問題点について文献検索により情報を収集する。これらの情報からPOCT機器の開発構想や研究方針を学修する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。 課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び④「臨床検査技師の役割を探究し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. 在宅医療における臨床検査技師の必要性を理解し、説明できる。 2. 海外の文献などを基に発展的な理論、技術を学び、説明できる。 3. 在宅医療で必要とされる検査機器の原理を学び、新たな技術開発を進める研究を組み立てることができる。							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく/分からない用語については調べておく (各30分) 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/復習のための課題を課すことがある (各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回	在宅医療に関する文献抄読1					福田愛子	
	第2回	在宅医療に関する文献抄読2					福田愛子	
	第3回	POCT、SMBG (血糖自己測定) に関する文献抄読1					藤田孝	
	第4回	POCT、SMBG (血糖自己測定) に関する文献抄読2					藤田孝	
	第5回	イムノクロマト法を使った簡易検査キットに関する文献抄読1					藤田孝	
	第6回	イムノクロマト法を使った簡易検査キットに関する文献抄読2					藤田孝	
	第7回	ポータブル生体検査装置に関する文献抄読1					藤田孝	
	第8回	ポータブル生体検査装置に関する文献抄読2					藤田孝	
	第9回	新規POCT、SMBG装置開発に向けた実験系の確立1					藤田孝	
	第10回	新規POCT、SMBG装置開発に向けた実験系の確立2					藤田孝	
	第11回	イムノクロマト法を使った新規簡易検査キット開発に向けた実験系の確立1					藤田孝	
	第12回	イムノクロマト法を使った新規簡易検査キット開発に向けた実験系の確立2					藤田孝	
	第13回	血管内皮機能の役割と運動、食事などに関する文献抄読					鈴木真紀子	
	第14回	在宅における血管内血栓症について文献抄読					鈴木真紀子	
	第15回	ミクログリアによるASD改善機能について文献抄読					鈴木真紀子	
	第16回	ミクログリアの機能とアルツハイマーについて文献抄読					鈴木真紀子	
	第17回	SMFC (凝固亢進マーカー) の分子レベルでの役割に関する文献抄読1					鈴木真紀子	
	第18回	SMFC (凝固亢進マーカー) の分子レベルでの役割に関する文献抄読2					鈴木真紀子	
	第19回	褥瘡に対する超音波とサーモグラフィの機能に関する文献抄読1					鈴木真紀子	
	第20回	褥瘡に対する超音波とサーモグラフィの機能に関する文献抄読2					鈴木真紀子	
	第21回	口腔内細菌の血栓発症についての分子レベルでの検討、文献抄読1					鈴木真紀子	
	第22回	口腔内細菌の血栓発症についての分子レベルでの検討、文献抄読2					鈴木真紀子	
	第23回	在宅医療における臨床検査技師の役割について1					鈴木真紀子	
	第24回	在宅医療における臨床検査技師の役割について2					鈴木真紀子	
評価方法 評価基準	レポート (60%)、プレゼンテーション (40%) で評価する。							
教科書	特に定めない			参考書等		教員が資料を配布する。		
学生への メッセージ	在宅医療は今後の臨床検査技師の業務上重要な位置を占めることが予想されています。毎回の講義の復習を十分行ない、討議には積極的に参加することを求めます。							